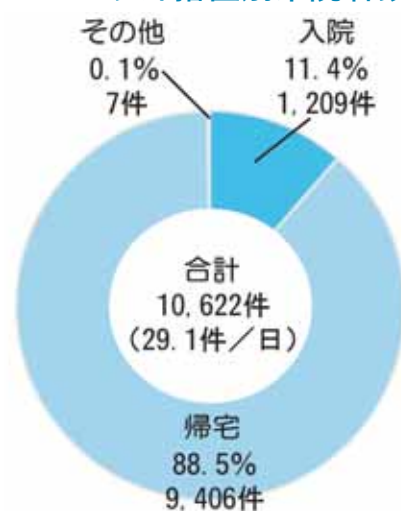


県立大船渡病院救命救急センターの利用状況

【グラフ1：
平成30年度救急車
措置別来院者数】



【グラフ2：
平成30年度救急車
以外措置別来院者数】



■救急車以外で来院する人
救急車以外で来院する人は、グラフ2のとおり、ほとんどが軽症と診断され帰宅しています。来院時間は、午後5時から8時までが多く、全体の33%となっています。「薬がなくなった」「夜来れば早く診てもらえる」などの理由の人もいますが、緊急を要する人の対応が遅れるため、平日時間内にかかりつけ医を受診することや、休日当番医を利用するなど、センターの適正利用をお願いします。

■救命救急センターを利用する際の注意点

大規模改修工事が12月で終了します

平成28年12月から開始した大規模改修工事は、本年12月に全ての工事が終了します。

施工に当たっては、騒音や振動、入院病棟の移動、診察室などの変更があり、患者さんと病院を利用する皆さんにはご迷惑をお掛けしました。

■工事の内容

手術室や外来化学療法室、内視鏡室などの機能の充実、ひとにやさしい駐車場を含めた駐車場の拡大など、来院者の利便性の向上を図るものです。



いのち・医療・地域を守る

住み慣れた地域で、必要なときに必要な医療を受けるためには、地域の皆さんと医療

救命救急センターは、緊急性・重症度が高い人を優先して診察するため、受け付けの順番どおりにならない場合があります。軽症の場合は、待ち時間が平日の日中より長くなる場合があります。

◎未来かなえネット
気仙地域と一関市、平泉町の医療機関などで医療・介護情報を共有するシステム登録することで、他の病院などでも検査内容や薬の情報などが分かり、的確なサービスが提供できる。

適正な救急受診をお願いします

■救急車による搬送

平成30年度の大船渡病院救命救急センターへの救急車による搬送者数は、総数では前年より若干増加しています。搬送者の措置状況を見ると、グラフ1のとおり、入院した人の比率は約39%で、全国平均の50%を大きく下回っています。

■救急車以外で来院する人

救急車以外で来院する人は、グラフ2のとおり、ほとんどが軽症と診断され帰宅しています。来院時間は、午後5時から8時までが多く、全体の33%となっています。「薬がなくなった」「夜来れば早く診てもらえる」などの理由の人もいますが、緊急を要する人の対応が遅れるため、平日時間内にかかりつけ医を受診することや、休日当番医を利用するなど、センターの適正利用をお願いします。

地域医療をみんなで守りましょう

～大船渡病院の適正な利用と救命救急の現状～



▶問い合わせ先＝国保年金課地域医療係(☎内線149)

なぜ今医療機関の かかり方について お問い合わせのか



岩手県立大船渡病院
瀧向 透 院長

国は、どこに住んでいても安心して生活できるよう医療介護などの体制づくりを進めています。少子高齢化が急速に進んでいる中、地域医療構想、地域包括ケアシステムという体制づくりが進められており、気仙地域においても医療機関や介護施設、行政などで、その役割分担や連携方法について話し合われています。

かかりつけ医を 持ちましょう

大船渡病院は、気仙地域において急性期医療・高度医療を提供しており、その役割を十分に果たすために、「かかりつけ医制度」の推進をお願いします。

これら以外の診療科においても、医療機関ごとの役割分担を進めており、症状が安定している人は、できるだけ地域の医療機関を受診するようお願いします。

大船渡病院では、内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、血液内科、泌尿器科、脳神経内科を初診で受診する場合、かかりつけ医からの紹介が必要となります。

大船渡病院では、内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、血液内科、泌尿器科、脳神経内科を初診で受診する場合、かかりつけ医からの紹介が必要となります。

238・3、最多の東京都では329・0と、全国最低であることが明らかになりました。医師偏在指標とは、地域における医師数の状況を示すもので、人口10万人当たりの医師数を基礎として、人口構成や医療ニーズなどの要素を加えて解析されるものです。

かかりつけ医とは、自宅近くにある診療所などで、日々の診療・投薬・検査・病状などについて、気軽に相談できるホームドクターのことです。体調の異変などによって医療機関を受診するときは、初めにかかりつけ医で受診してください。もし精密な検査や入院加療が必要となった場合は、かかりつけ医から大船渡病院院を紹介いたします。

安心して医療サービスを受けるためには、気仙地域の中核病院である県立大船渡病院や併設する救命救急センターの医療体制の充実や、地域内の医療機関の役割分担と連携による切れ目のない医療を提供する体制の構築が必要です。そのためには、市民の皆さんが、症状や地域の医療機関の役割に応じた受診を心掛け、地域医療を支えていくことが必要です。本号では、県立大船渡病院院長であり、同救命救急センター長である瀧向透院長に、大船渡病院の現状や課題を伺いました。